

鴨川小学校だより

令和5年5月16日第6号（保護者の皆様へ）

『自己肯定感』

最近、「自己肯定感」という言葉を耳にする機会が増えていませんか。人が自己肯定感をもつ場面は大きく3種類あるといわれています。

1 めあてを達成したとき

自分で設定した目標に向かって、努力を積み重ねた結果、達成することができたとき

2 よさを認められたとき

自分では意識していないことを他人に価値づけられたとき

3 感謝されたとき

自分の行為によって他人から感謝されたとき

自己肯定感とは、自分そのものが大切な存在であることを意識することで育ちます。また、自己効力感（自分にできることがあると感じる気持ち）とあいまって、「自信」をもつことができるといわれています。

学校生活の中で、自らの目標に向かって努力を重ねる経験を積んでいけるようにすること、互いのよさを認め合う場面を設け、感謝を伝え合う空間を作っていくことなど、日々の取組を進めていきます。

教育専門家 石田勝紀さん著「子どもの自己肯定感を高める10の魔法のことば」によると、次のような声かけがよいとされています。10の言葉は、次の5つに分類されます。

3つの承認のマジックワード	「いいね～」 「さすがだね」 「すごいね」
2つの関心のマジックワード	「なるほどね～」 「知らなかった～」
3つの感謝のマジックワード	「ありがとう～」 「嬉しい～」 「助かった～」
1つの安心のマジックワード	「大丈夫、大丈夫～」
1つの指摘のマジックワード	「(〇〇ちゃん) らしくないね～」

子どもたちの自己肯定感を高め、思いやりをもって成長していけるように、そして、「つながり」を生む教育活動がさらに充実したものになっていくように、今後も皆様のご理解とご支援をよろしくお願いいたします。

